

## 第1回山城地域振興計画推進懇話会 主な意見(抜粋)

- フードテック構想に関して、物流がネックとなる。このような構想は交通利便性のよい地域が拠点となりがちだが、例えば南山城村を起点として物流を京都市内に向けて走らせるというように、中央ではなく末端に拠点を作り、物流を逆流させるというプロジェクトの作り方がなされれば、相楽東部3町村のような中山間地域、過疎地域の産業振興・発展につながると思う。
- JR関西線が廃止するかもしれないという話もあり、鉄軌道やバスでの貨客混載等も含めて、検討いただきたい。
- 現在、大学でも教育の質保証が重要視されている。また、集団教育においては、集団で様々なスキルを身につけることができ、大学でもアクティブラーニングとして開発が進んでおり、高校や中学でもそのような教育の質を高めていく取組が行われてきている。DXの流れも小学校、中学校、高校と広がっているが、保育の現場はそういったことから取り残されている。
- 保育所では教育という視点が抜け落ちている。せっかくの集団保育の場であるため、子どもたちの協同性のような非認知のスキルを高めるような保育をしていくことが重要で、それが将来の教育格差にもつながる。最初の集団教育の場である保育所ですっきりとした保育の質を担保することが、教育格差を縮小していくことにつながるため、保育の質というところに注目していただきたい。少子化により子どもの数が減っているため、注目すべきは量ではなく質であり、特に保育所はそこが抜けているので、今後注目していただきたい。
- 今、育休が長くとれるようになり、母親が1年は赤ちゃんの世話をしているが、親の養育力、子育て力が低下しており、親が親となるために勉強するような機会が必要である。できれば親の義務教育として、子どもが1歳2歳のときに、親と子どもが一緒に学ぶ場のようなものがあると親子の絆も深まり、ゆくゆくは親子の人間関係を築いていくことができるため、そのような機会を増やしていただきたい。
- 現在、コロナ禍により防災訓練等の訓練や地域の行事もすべて中止になり、もともと希薄だった地域のコミュニティが全くなっている。さらに核家族化が進み、高齢者だけ、高齢者1人で暮らしている世帯も増えており、安心安全が脅かされている印象がある。
- 今ハザードマップ等の防災情報が普及してきており、インターネットですぐ見られるが、弱者となる高齢者の多くはインターネットを全然使わないため、高齢者のような弱者にも紙媒体で周知するなど、すべての人に行き渡るようなきめ細かい防災対策を行政にもしていただきたい。

- 今の時代、コロナ等いろいろな意味で難しい時代のなかで、このような計画を策定するという事は難しいものであるが、できるだけ地域の意見を聞いた上で、総合計画、地域振興計画を作っていただきたい。
- このような計画は重要な計画であるため、安心温もりゆめ実現というテーマに向かって、誰もがわかるような計画となるようにしていただきたい。
- 学研エリアにおいては、少子化という問題が労働人口の減少へとつながり、ものづくりにおいて人が不足すると物を作れなくなっていき、マクロで見ると社会生活における利便性を損ねていく可能性やサプライチェーンを寸断してしまうというリスクもある。
- 昨今、DXの推進についてもよく耳にするが、DXというものはあくまでもツールであり、それを使って何をやるかということについて、明確な指標を示していただくことで、製造業の経営者の方々がDXというツールをどのような目標に向かって使うのかということが明確になる。そのような支援として、セミナー等を通して、DXについて明確に普及させていくような施策が必要である。
- スマートけいはんなについては、このけいはんなエリアの企業の研究開発について、地元の住民に価値を感じていただけるいい機会になるため、地域住民にとって他人事のような雰囲気にならないように進めていただきたい。
- 安心温もりゆめ実現と視点は府民の生活を考える上で大切だが、「交流」という観点から、国際交流や国内の外部人材導入を含め、交流を盛んにして新しい事業やプロジェクトを考えることが重要である。
- 山城地域は自然にも恵まれ、一方では学研のような最先端の地域もあり、「環境」という要素をどう位置付けていくのかということも重要。
- 山城地域は、農村的な地域と先端的な企業の集まる地域、ものづくりと農林業、さらには保育やICTを活用した新しい生活等の「バランス」、多様性という要素も重要。
- 南部地域では現在、都市基盤の整備が進んでおり、「産業」の振興というの、今山城地域で取り組むべきである。
- 京都市も南部地域への企業誘致等を考えていることもあり、「京都市との連携」をうまくさせていくということも重要である。交流、環境、バランス、産業、京都市との連携が重要なテーマとなる。
- 市町村の計画と総合計画、振興計画のリンクがあまりできていないように思う。委員や現場の意見、計画間の整合性を図った計画策定をお願いしたい。

○中間的なポジションの振興局として、市町村との連携や地域の方々の意見を本庁が作る上位計画にも反映できるような、上と下に向けての目配りをお願いしたい。